

平成 18 年度 御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会
【市民協働事業公開説明会・審査会】 議事録

日時 : 平成 18 年 6 月 17 日 (土) 10:00 ~ 12:30

場所 : 荻原公民館 多目的ホール

参加委員 : 委員 13 名 (佐々木、福島、神保、渡邊、芹沢、田代、藤村、近藤、湯山、鈴木 (政)、青木、山本、勝又) 学識経験者 1 名 (牛山)
合計 14 名

事務局 : 鈴木 (政)、鈴木 (明)、勝又、上道 (地域振興課)
山本、福島 (株ダイナックス都市環境研究所)

1 市民協働事業提案説明および質疑応答

事業計画書に基づき、5 団体より事業説明が行われた。説明後の質疑応答は以下のとおり。

富士山文化の杜シリーズ 富士山の恵み「湧水」出版事業 (NPO 法人富士賛会議)

Q. どの程度の出版物を想定しているのか？

A. 詳細はまだ決まっていない。通常専門業者に発注すると 1 ページ 13,000 円くらいかかるが、出来るだけ自前で作成し、経費を 3 分の 1 程度に抑える。大量に印刷するのではなく、環境教育の講座で使うときは貸与する方法を考えている。

「クリン - 音のいる・音のうごき」(シュピールハウス御殿場)

Q. 行政との協働として、運営資金の助成以外にどういう点がありそうか？

A. 市には美術館がなく、御殿場市民はギャラリーに行く経験が少ない。行政との協働の場の 1 つとして、子供達にそういう機会を与えたい。

Q. 対象として親子 20 組というのは少ないのではないか？

A. 講師が様子を見ながら教えるためには、これまでの経験上 20 組が限度であると考えている。徐々に、他の人にも広がりを持たせていきたい。



会長あいさつ



NPO 法人富士賛会議



シュピールハウス御殿場

2006 元気わくわく ごてんばフェスタ（NPO法人御殿場体育協会）

Q. イベント実施にあたって、連絡調整の方法はどうか？

A. 事前説明会を1回行う予定。これまでは行政の呼びかけで活動団体が集まることが多かったが、今回の提案事業は受身でなく、自ら参加するスタイルになることがポイントである。

Q. 仮に助成が認められなかったら、このイベントはどうなるのか？

A. 今年度の予算は計上していないので、実施は厳しくなる。来年度の協会の予算に計上できるかどうかというところである。

神山城址公園整備事業（神山有志の会）

Q. ボランティアの人数が少ないと大変だと思うがどうか？

A. 夏祭りには多数の区民も参加していることから、地域の輪は出来ている。提案事業を通じて参加者は広がってくると思う。

御殿場線まつりの開催（御殿場線を育てる会）

Q. 景品10万円とあるが、具体的にはどうか。またアウトレットに近い新駅の可能性は？

A. 前回実施の時は、農協からコシヒカリを出した。新駅については検討されているようだが、この事業ではあまり考えていない。



NPO法人御殿場体育協会



神山有志の会



御殿場線を育てる会

2 講評（協議会委員：牛山助教授より）

「協働」というのは、従来行政がやっていたような事を、住民の発意で発展させていく動きからきている。ここ御殿場市での提案事業もこの動きの延長線上にある。今日の発表の感想だが、いずれも地域の中から発案される提案として素晴らしく、深く聞かせていただいた。個別のことに対しては、公平な審査のために控えるが、地域課題の発見、市民の協力、公園や自然保全、地域振興、情操教育、団体のネットワークづくりなど、バラエティに富んだ提案だった。

いずれも市民事業として重要な役割を持っており、本当はすべての団体に担ってもらえることが良いと思うが、予算の枠組もあるので、委員も厳しい立場で審査をしようと思う。結果は出てくるが、もし採用でない場合も、次年度以降再チャレンジして頂くという前向きな姿勢で、さらに市民協働事業を発展させていってほしいと思う。



3 審査（進行：㈱ダイナックス 山本）

山本 最初説明したように、今日の説明を聞き、評価表への記入をした上で、各委員から2団体の選出をしていただく。なお、自分の所属団体が応募している場合は、自分の団体を選ぶことは控えていただきたい。

委員A 5つの団体を分野別に分けると、は自然保全、は情操教育、はイベント、は環境整備、はイベントとなる。出来れば部門別に選ぶような形がいいと思うがいかがか。

山本 まずは2団体を素直に選んでいただいて、後で、同じ分野が重なったら分野別に検討していくこととしたい。

【以下、各委員が選出した2団体を発表。その結果、 神山城址公園が1位。 富士賛会議と ごてんばフェスタとなった】

山本 次点となった2団体について、意見のある方は述べてほしい。まずは の富士賛会議について。

委員A 富士山には素晴らしい自然が残っており、そこを舞台とした活動というのは貴重である。世界遺産にしようという動きもある。

委員B いい出版物が出来たら、継続して活用する方向で考えてほしい。

委員C 地元に住んでいても自然のことはよく知らない。活動を通して皆さんに広く知ってもらい、市以外にもアピール出来るのではないか。学校で植林活動なども行われている。全体を知らしめるということはいいことだと思う。

委員D 冊子をつくるだけでなく、それを生かせる事業にしてほしい。それが条件である。自分達の思っただけでなく、市民に広がるような場を考えて冊子をつくってほしい。

委員E 自分も農家で、富士山の自然湧水を利用したわさび田などもあり、様子はよくわかる。湧水のことだが、出ている場所が柿田川や富士宮のように公共の場所であれば、人が集まって自然観察や勉強会はやりやすいと思う。

ところが、御殿場では個人の家の敷地から出ているものが多い。わさび田に入ることに對して、地主は敏感になるのではないか。例えば本やインターネットで紹介して、人がたくさん訪れたらどうなるか。地権者に迷惑をかけないで勉強会をするという保証ができるか。御殿場のようなケースには難しさがある。富士賛会議がそのような位置づけが出来ているかということに、懸念がある。個人情報に引っかかってくるのではないか。

山本 では次に のごてんばフェスタについて。

委員F 各地域でのまちづくり活動が大きな輪になる、いいきっかけになる。横のつながりが広がることはいいと思う。

委員G 会場になる馬術・スポーツセンターは、有効に使われていない。市民に知ってもらう良い機会になる。

委員H 福祉の関係ではふれあい広場での集まりはあるが、市民活動団体が一同に会する場はこれまでにないので、子供からお年寄りまで集まるイベントはとてもよいと思う。

委員I も イベントであるが、中身で言えば、は市民ネットワークの形成で、は地域振興である。そういう意味で、個別の活動も魅力的ではあるが、の市民をつなぐネットワークというのは、市民をつなぐ「芽」として良いと思う。

批判というわけではないが、は事業全体としては良いと思うが、出版というのがひっかかる。どんな分野でも本をつくりたいという人はたくさんいる。たとえば、湧水を知る活動というよう

な事業であればいいと思うが、今回の申請では出版事業になっている。いい内容のものが出来るのかという話も出てくる。そういうことを考えると、のほうがいいと思う。

委員 J 施設の有効活用という点が1つと、ボランティアが一同に会して出てもらうというのは、市民活動の活性化につながると思う。

委員 D 実は と で悩んだ。先日のキックオフ大会の時に、「市民活動見本市」を予定しているという話があったので、見本市とごてんばフェスタを合体して開催するのであれば、でも良いと思っていた。同じ年度に同じことをやる必要はないと思うので。内容的には はいいいと思う。

事務局 確かに、協議会の事業と一緒にやることは十分考えられる。

事務局 18年度の事業計画案として「市民活動見本市」を予定しているが、まだ時期や方法は決めていない。事務局としては、協働事業の事業報告を兼ねて、年度末にやることを想定していた。見本市がごてんばフェスタと同じような内容なので、体育協会と一緒にやったほうが良いというのであれば、協働事業の活動報告会とは切り離す形でも良いと思う。協議会委員の皆さんの意見を聞いて決めたい。

山本 協議会の事業メニューに見本市があがっていたが、具体的には決まっていなかった。今回NPOから提案されたフェスタを採用するとすれば、協議会で考えていた見本市と一緒にやったらどうかというご意見である。

委員 E 事業計画書にある10月22日開催というのは、NPOが参加団体に問合せをし、調整して決めたのだと思う。事務局でやろうとしている見本市と協働でやることになるか。もし採用した場合には、計画書の内容が少し変わってくるということか？

山本 その可能性はあると思う。他の事業についても言えるが、協働事業だから行政との協議の中で、中身が多少変わることはあり得る。

委員 C の本の出版事業については、外したほうが良いと思う。先ほどの発言にもあったように、湧水の所有者の問題は大きい。また、1箇所にとままっているわけではなく、あちこちに散らばっているという地域の問題もある。それを考えると が良いと思う。

委員 I の活動そのものは、御殿場の特徴があって良いと思う。なので、今年度はきちんと理由をつけて、出版事業や湧水の場所に関わる問題点を示し、テーマとしては良いという評価をした上で、次年度違う形でチャレンジしてもらおうのがよいと思う。

委員 E の御殿場線まつりも、予算の枠があると思うが、立ち上げる方向で出来ればよいと思うが。

委員 K 自分は には反対である。 と の差は、今わずか2票である。 を簡単に落としていいのかということが1つある。

体育協会は、馬術競技場の指定管理者であるなら、その仕事の1つとしてこの事業を行うべきである。あえて、この協働事業でやる必要があるのかが疑問。また、 の出版物については、この予算の範囲内では、中途半端なものしか出来ないのではと感じた。総合的には のほうが良いと思う。

それから、経費については各団体ともに工夫の余地があると思う。予備費や諸経費がついていたり、 の場合は講師代が多くを占めている。例えば の御殿場線まつりでは、運営費の一部だけ助成し、景品代は自分達の努力でやってもらうという方法があってもよいのではないか。すべて満額を補助していく必要はないという気がする。

山本 この話は調査部会でも議論になった。5つ応募があったので、少しずつすべての団体にという意見もあった。しかし、2団体ということ的前提に審査するという説明をしていたので、まずは

2 団体選ぶというのが筋であり、審査する側の役割と責任だろう。その上でさらに採用するというのであれば、別の話として考えるべきだ、という結論になった。公開説明会でも 2 団体と説明しているの、とにかく 2 団体選ぶべきだと思う。

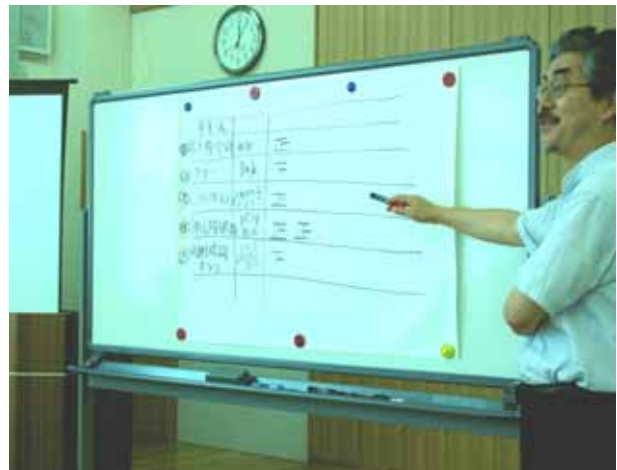
さきほど、 のフェスタは指定管理者でやるべきという話があったがいかか？馬術センターをよく知ってもらうという意味では、指定管理者の仕事であるが、市民団体のネットワークが目的であれば、指定管理者の仕事では必ずしもない。

委員 D は指定管理者の仕事以外の目的として、地域振興課との協働事業で行うということの良いのではないか。

(ここまでの審査内容を参考に各委員が再度投票)

山本 では、これまでのご意見で と の 2 団体を採用するという事で、皆さんよろしいか。
一同 異議なし。

【審査の結果、「神山城址公園整備事業」および「2006 元気わくわく ごてんばフェスタ」を市民協働事業として採択することに決定】



審査会の様子

残った予算枠について

山本 1 事業 30 万ずつの予算枠があるが、ごてんばフェスタが 22 万円の申請なので、残り 8 万円についてはどうするか。

委員 I 8 万円をどこかに渡して、何ができるのかという話にならないか。総額 30 万円では出来るが、8 万円では断念するという場合もある。

委員 D 「はじめの一步部門」の応募が少ないので、予算は余るのではないか。その予算分も合わせて、出来るところにやってもらうという方法はどうか。

委員 L 御殿場市職員の立場で言うと、お金が余っているからという発想は、根本的には考えないほうがよいと思う。原則どおり 2 団体に良いと思う。

委員 J そうは言っても、応募してきた事業には捨てがたいところがある。限度いっぱいあげるという考え方もある。

委員 I 3 つ残っているときに、中身を我々がおもんばかって 1 つ選ぶというのは、選び方が難しい部

分がある。同じ票数であるし、他の団体はなぜ落とすのかということが出てくる。審査を公正にやるという部分で問題がある。落とす理由がはっきり言えれば良いが。

委員 E ルールはルールなので、予算が余ったのという考えは確かにおかしいだろう。

委員 I やるなら、事業実施が可能かどうかは別として、いずれも捨てるがたいとして、余った8万円を均等に分けるという考え方はあると思う。

山本 予算枠で残るお金は、モデル事業であるので、協議会で1つ立ち上げてみても良いかもしれない。

委員 E これまで3年間検討してきて、協働とは何かという所から始まり、協議会で協働事業をどうやって進めるか判断していくという一連の流れにつながった。自分自身もこういう形で進んでいくということが理解できた。これを次の委員につなげていくことになるのだと思う。

はじめの一步部門および行政提案部門について

事務局 はじめの一步部門については、2団体から応募が来ている。予定していた5団体の枠内にあるので、特に問題がなければ、採択するというところで行きたいが。

一同 異議なし。

山本 はじめの一步部門は予定枠が余っているので、二次募集ということになるのか？

事務局 二次募集を出すことにしたい。

事務局 行政提案部門は今回の選考には間に合わなかった。今働きかけをしているところなので、次回の協議会で報告させていただく。

不採択の理由説明について・その他

山本 では採択の2団体が決まったので、不採択の団体にはきちんとコメントをつけて説明してほしい。は出版事業というのは協働事業の趣旨から外れており、出版事業ではない形の事業として提案されればよかったという意見に総括できる。についてはどうか。

委員 I は予算の配分の問題。講師料に偏りすぎているので、予算のたて方に工夫がほしいということ。は、列車の増発が目的とあったが、事業の内容と目的のあいだに違和感があること。

委員 E 以前、行政提案部門で案が出ていた、駅前のイルミネーション事業のようなものを作ってもらった方がよいかもしれない。駅が華々しくなる。

山本 ぜひ行政提案部門で受けてほしい。

委員 J は開催日が11月とあるが、利用客(登山客など)が多い8月頃にやったほうが良いと思う。

委員 D 採択された事業についてのフォローはどうなるのか。地域振興課が窓口になるのか。

事務局 協働事業の相手方である担当部署と調整を行う。今後の協議会で、進捗状況など報告していくことにしたい。

事務局 では本日の公開説明会・審査会はこれにて終了する。

(終了)